

「竹子小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	霧島市立竹子小学校
2. 学年・人数	3年生～6年生 13人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年9月～11月 計6回 竹子小学校 体育館・校庭 (2) 発表の日時・場所 令和6年 9月21日 竹子ふるさとウォーク 物産館駐車場（雨天中止） 令和6年 9月29日 竹子小学校運動会 校庭 令和6年11月23日 みぞべ文化祭 みそめ館
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 名 称 竹子棒踊り（たかぜぼうおどり） (2) 由 来 竹子棒踊りの起源は、島津義弘公の朝鮮出兵前後にあるといわれ、豊作祈願の舞として古くから竹子校区内の各集落で踊られてきたものである。保存会の指導の下、竹子小の児童も踊りを継承し、運動会では30年間、踊り継いでおり、地域の伝統をつなぐ踊りとなっている。 (3) 構成等 かすりの着物に五色の飾りを付け、頭には鉢巻き、手には4尺の棒を持ち、4人一組で踊る。扇子を手に、かけ声とともに入場し、「ソッソッソッ」と勇ましいかけ声を出しながら、跳び跳ねたり、背中を反らしたり、棒を左右、前後の人と叩き合わせたりするなど、複雑な動作で踊りが展開する。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	小学生の竹子棒踊りの動きは、平成27年度まで地域の大人の踊りの動きを簡略化したもので踊っていた。平成26年度に地域の棒踊り保存会が約10年振りに復活したのを契機に、平成28年度の運動会から大人と全く同じ動きで踊るようにした。地域民にとっても、大人と同じ伝統の踊りが継承される様子を見て、大変嬉しそうであり意義あるものとなっている。
6. 取組の様子 （練習状況、発 表の場等）	 運動会で披露  みぞべ文化祭での披露
7. 感想・意見 （参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等）	【児童】 ・ 棒踊りは動きが難しかったけど楽しかった。 ・ 人前で踊ることはドキドキしたけど、上手に踊ることができた。 【教員】 ・ 少ない人数の中、精一杯踊りを披露することができた。子供たちにとってもたいへん貴重な取組となっている。